

e-Knowledgeコンソーシアム四国

外部評価委員 名簿

所 属	氏 名	役 職
	委員長 竹内 守善	地域振興アドバイザー
四国学院大学	神野 明	副学長
四国経済連合会	三木 義久	専務理事
放送大学	森 孝明	愛媛学習センター所長
高知県立大学	野嶋 佐由美	副学長、高知県公立大学法人理事

e-Knowledge コンソーシアム四国外部評価委員会規則

(平成 24 年 4 月 12 日)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、e-Knowledge コンソーシアム四国（以下「コンソーシアム四国」という。）規約第 13 条の規定に基づき、外部評価委員会に関する必要な事項を定める

(任務)

第 2 条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる事項を評価する。

- (1) 事業推進への助言
- (2) 各取組の連携目標、実施目標、実施結果に対する評価
- (3) 評価結果に基づいた各取組に対する提言
- (4) 次年度計画に対する評価
- (5) その他本事業の評価に関すること。

(組織)

第 3 条 外部評価委員会の委員は、コンソーシアム四国の役員及び職員以外の学識経験者から、コンソーシアム四国の会長が委嘱する。

2 前項において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 役員 コンソーシアム四国規約第 6 条に規定の者
- (2) 職員 コンソーシアム四国規約第 10 条から第 12 条に規定の委員会及びその分科会の構成員並びに事務局長並びに会員組織のコンソーシアム四国事務担当者

(委員長)

第 4 条 外部評価委員会に委員長を置き、委員の互選とする。

(任期)

第 5 条 委員の任期は 3 年とし、再任は妨げないものとする。ただし、通算在任期間は 6 年を限度とする。

(実施方法)

第 6 条 原則として年 1 回、外部評価委員会の開催又は書面審査（メール会議などを含む）で行う。

(評価結果の公表)

第 7 条 外部評価報告書を作成し、コンソーシアム四国のウェブサイト等で学内外に公表する。

(事務)

第 8 条 外部評価委員会の事務は、当分の間コンソーシアム四国事務局が担当する。

(その他)

第 9 条 この規則に定めるもののほか、外部評価委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成 24 年 4 月 12 日から施行し、平成 24 年 4 月 1 日から適用する。

e-Knowledgeコンソーシアム四国

平成24年度外部評価委員会議事次第

日 時：平成 24 年 3 月 6 日（水）11:00～12:00

会 場：Microsoft Lync を利用した遠隔会議

- 1 開 会：(1)有馬会長挨拶
(2)竹内委員長挨拶
(3)委員紹介
(4)外部評価委員会規則説明

- 2 議 題：(1)平成24年度の事業実施報告
(2)平成25年度の事業計画について
(3)質疑応答及び意見交換
(4)その他

- 3 閉 会： 深見副会長挨拶

[配布資料]

外部評価委員名簿

外部評価委員会規則

議題資料 1. H24年度e-Knowledgeコンソーシアム四国事業実施報告

議題資料 2. H25年度e-Knowledgeコンソーシアム四国事業実施計画

別添資料 1. H22、H23、H24年度実施科目の大学別の履修人数

別添資料 2. H21年度からのコンテンツ作成数と利用状況

別添資料 3. H24年度eK4事象絞り込み及び達成状況

別添資料 4. H25年度eK4事業実施計画の詳細検討

関係資料 1. ニュースレター



平成 24 年度外部評価委員会 議事録

日 時：平成 25 年 3 月 6 日（水）11：00～12：00

場 所：Microsoft Lync を利用した遠隔会議

出席者：【司会】林敏浩（香川大学）

外部評価委員：出席者	
竹内守善	地域振興アドバイザー 外部評価委員長
三木義久	四国経済連合会専務理事
野嶋佐由美	高知県公立大学法人理事・高知県立大学副学長

陪席者	
有馬道久	香川大学 eK4 会長
深見公雄	高知大学 eK4 副会長
宮下晃一	鳴門教育大学 代理
古賀理和	愛媛大学 代理
山本耕司	四国大学 代理
山城新吾	徳島文理大学 代理
妻鳥貴彦	高知工科大学 代理

他 陪席 15 名

1 開会 会長挨拶

- 2 議題 (1) 平成24年度の事業実施報告（議題資料1、別添資料1、2、3）
(2) 平成25年度の事業計画について（議題資料2、別添資料4）

3 閉会 副会長挨拶

議題資料

議題資料1. H24 年度 e-Knowledge コンソーシアム四国事業実施報告

議題資料2. H25 年度 e-Knowledge コンソーシアム四国事業実施計画

別添資料1. H22、H23、H24 年度実施科目の大学別の履修人数

別添資料2. H21 年度からのコンテンツ作成数と利用状況

別添資料3. H24 年度 eK4 事業絞り込みおよび達成状況

別添資料4. H25 年度 eK4 事業実施計画の詳細検討

関係資料 ニュースレター

会長挨拶

年度末のお忙しい時期に委員の皆様にはご出席いただきありがとうございます。昨年度から引き続き、eK4の会長を仰せつかっております、香川大学の有馬です。本日はどうぞよろしくお願いいたします。昨年外部評価委員会規則を作りました。それに則って、竹内様に委員長のご就任をお願いしましたところ、お引き受けくださいました。本当にありがとうございました。今回が最初の外部評価委員会となりますが、よろしくお願いいたします。本日は、今年度の事業報告と来年度の事業実施計画についてお諮りください。昨年度の外部評価委員会では委員の皆様のご意見が大変印象的でした。確信をついた様々なご指摘をいただきました。その後、我々も改善に努めてきましたが、本日もそれぞれのお立場から忌憚のないご意見・ご提言を頂ければと思います。

外部評価委員長挨拶

e-Knowledge コンソーシアム四国の外部評価委員長としてご挨拶させていただきます。本日は年度末の大変お忙しい時期にこういった場を設けてくださりありがとうございます。日頃、この eK4 の活動について HP を拝見したり、ニュースレターを読ませていただいたりしています。24 年度はグローバルチャレンジセミナーやシンポジウム等を開催されていて、非常に深い内容を着実に進められており大変感心しています。

私事ですが、私が県庁に入ったのは、昭和 42 年で半世紀も前のことになりましたが、当時は今のような情報社会ではなく、電卓やそろばんの時代でした。「OA 化」という言葉が県庁に入ったのは、私が入庁した翌年 43 年でした。そのときに電卓を買おうという話が出ましたが、当時の電卓はタイガー計算器をモーターで回すタイプでした。そういう機械がメインでした。しょっちゅう真空管がとんで、真空管の差し替えをしていた時代ですが、今とずいぶんかけ離れていたと思います。香川県庁は、早い時期に FAX が入りましたが、昭和 50 年ですし、FAX が便利な機械だと言われても FAX する相手がいないといった時代でした。今日は、こういった遠隔で会議が出来るわけですが、2001 年に栗林公園とニューヨークを結んで会議を行った際は、今のようにインターネットではなく、電話回線を 4 本ほど引っ張って、テレビ電話で繋いでいました。

話が脱線して申し訳ありませんが、今年香川県では瀬戸内国際芸術祭が開催されまして、そこではタブレットを使い、海外の人に作品の翻訳を聞いてもらうということを試みております。時代は e-Learning とかモバイル Learning に移行しているのかなと感じます。教育基盤の四国の知を凝縮されるということで、この事業は意味のある事業だと思っていますので、本日は忌憚のない意見を皆様に語っていただきたいと思います。よろしくお祈りします。

外部評価委員紹介

林事務局長から外部評価委員の紹介があった。

外部評価委員会規則

林事務局長から外部評価委員会規則の説明があった。

議題（1）平成 24 年度の事業実施報告（議題資料 1、別添資料 1、2、3）

林事務局長から平成 24 年度の eK4 事業実施について報告があった。

外部評価委員から以下の意見があった。

【竹内委員】

最初に外部評価委員名簿の肩書きについて説明しますが、私は県から「香川県地域振興アドバイザー」という称号をいただいていたが、昨年から「香川県地域振興参与」という職名に変っている。NHK などのレポーターをしているときは香川県を除け、自称「地域振興アドバイザー」にしている。一応肩書きは県外で使うときも地域振興アドバイザーにしている。香川県で行事があった場合は、地域振興参与を使っている。eK4 では地域振興アドバイザーをお願いします。

事業はいろいろやっておられて、非常に充実しているように感じる。しかし、これからは幅を広げて大勢の人にも協力してもらうことも大事だと思うし、情報を集約していく機関がどこか必要だと思う。例えば、香川県の手袋工業組合で戦前の 8 ミリの古い映像の資料が出てきた。これをデジタル化しようと今、手袋組合と取り組んでいる。これに何が映っているかいろんな人たちに聞いて、コメントを入れて映像にしていこうとしている。組合からこういう資料を提供してもらい、保存しておけば、いろいろな場面で活躍できると思う。こういった資料をいろいろなところから集める仕組みがあれば良いと思う。香川県の e-とびあという施設に古い写真の預かり所がある。いろいろな人から集めた写真があるので、教材等使えるような物はどんどん活用していけばコンテンツもより充実すると思う。著作権の問題もあると思うが、それもクリアした上で使用できるとより便利になると思う。ぜひとも検討していただきたい。

【三木委員】

事業実施報告に言葉が出てきていないが、四国経済連合会は、大学のグローバル人材の育成という取り組みを行っている。平成 23 年に四国の大学と四国経済連合会とで人材育成について意見交換をし、産業界はどういった人材を求めているかを話し合った。その中でグローバル人材というのが非常に大事だということが分かり、これを踏まえて平成 24 年 10 月にグローバルチャレンジセミナーを開催し、これを通してグローバル人材育成の場を設けた。このときに香川大学と話し合いをして、eK4 のシステムを使い、四国中の大学を遠隔でつなぐことを試みた。香川県だけではなく四国全体にこういった情報を伝えながら産学一緒になってやっていきたい。25 年度も eK4 のシステムを使って、こういう取り組みをやっていきますので、是非よろしくお祈りします。

→ (林事務局長)

昨年 10 月 31 日に行われたグローバルチャレンジセミナーは議題資料 1 の「⑩人材育成に関わる新規事業の検討・実施」にあたる。ここは各大学が主体的に動いていると考えて、今年度は実施しなかったとしているが、ここにグローバルチャレンジセミナーについて記載させていただく。

【三木委員】

グローバル人材育成を eK4 のシステムを使い産学一緒になって取り組んでいきたいと思う。

→ (林事務局長)

是非こういった eK4 との連携をよろしくお願いします。

【三木委員】

その場合、香川大学からではなく、他の大学で行うこともできますか。

→ (林事務局長)

特に問題ございません。

【野嶋委員】

私達も本格的に遠隔授業を考えなければならない状況である。そういう面では、この事業でされていることは、私達にとって非常に有用なので、ノウハウを教えていただきたいと考えている。私達が行う遠隔授業は、オンデマンド型ではなく、テレビ会議システムのようなライブ型を考えている。資料を見ると、この事業ではオンデマンド型が主流だと思うが、コンテンツの開発、あるいは開発のプロセス等を、是非他大学に対して教えていただくようなシンポジウムや公開講座を開いていただければ、私達も助かる。遠隔授業に関しては、着実に進めていられるので、ノウハウを教えていただきたい。

また先ほどから話題になっている「⑩人材育成に関わる新規の検討・実施」という項目は、今年度は実施されなかったと記載されているが、実際には開始されたということなので、正規学生に対しての授業だけではなく、良いシステムをお持ちなので、地域の人々へ発信をしていただければ、有り難いと思う。

→ (林事務局長)

ノウハウ発信としてシンポジウムや公開講座を開くということに関しては、eK4 は平成 20 年度から始まったが、20 年度 21 年度は各連携大学のスキルアップを図り、公開講座をいくつか開催した。今年度は 3 月 17 日に e-とびあかがわで、eK4 が主体となった映像撮影・編集講習会を企画している。こういった取り組みを積極的に行っていきたい。

議題（2）平成 25 年度の事業計画について（議題資料 2、別紙資料 4）

林事務局長から平成 25 年度の eK4 事業計画について説明があった。

外部評価委員から以下の意見があった。

【竹内委員】

非常に盛りだくさんで、これから検討するという項目も多いという話だが、著作権処理については、面倒な話になると大変なので、早急に対応していかなければならない。使い方を誤ってしまうと大変なことになってしまう。WG で検討していくという話だが、Web でいろいろ出ていると思うのでそういった物を参考に急いで対応していただきたい。WG で検討というのはどれくらいの頻度で行われるのか。

→ (林事務局長)

著作権は、当初 WG で対応すると考えていたが、現在は月 1 回開催される企画委員会の中で議論されている。また著作権に関して四国大学企画委員の村井先生が詳しいので、村井先生と eK4 事務局とで不定期で情報交換している。

また各大学の知財関係の部署との連携を検討している。

【三木委員】

③オープンコンテンツ化について、一般への公開は、例えば大学の講義室を使って、一般の人を招き映像コンテンツを見るとか、そこでオンデマンドで勉強をしてもらおう等も問題があるのか。

→ (林事務局長)
コンテンツを見る人を特定してということですか。

【三木委員】

はい。コンテンツに興味をもってもらわなければ、一般に広げることも難しい。徐々にでもいいので、大学に来てもらい、コンテンツを視聴してもらってはいかがか。

→ (林事務局長)
視聴する方が不特定多数だと著作権等の問題があると思うが、視聴する人を特定するなら、実施可能だと思う。その視点では考えていなかった。

→ 【三木委員】

四国学のように四国のいろいろなことを知れる科目は、是非一般の人に見てもらった方が良いと思う。当面の著作権の問題をクリアするために、こういう形で実施し、コンテンツに関心を持ってもらうことから始めてはどうか。

→ (林事務局長)
そういう発想が今までなかったので、この方法を検討していきたい。

→ (有馬会長)
特定することの方法論の具体化を今後検討していきたい。ありがとうございました。

【竹内委員】

役所等もオープンにしたい情報を持っている。香川県庁の HP では「早わかり香川県」というページがあって、ビデオ等で香川県のことをもっと知ってもらおうと取り組んでいる。今、いろいろな県でそういうことをしている。そういった情報を発表するのも役所も望んでいると思うので、その情報を集めてオープンキャンパス等の場で流すということをするれば、こういった事業の存在そのものも理解してもらえらると思う。使えるものはどんどん使っていけば良いと思う。役所は結構資料を持っているので、提供してもらえらるものもあると思う。

→ (林事務局長)
いつもご指摘いただいているが、なかなか動けていない。これからがんばっていききたいと思う。

【野嶋委員】

平成 25 年度も非常に盛りだくさんな有意義な事業が展開されると思う。また 29 年度までの計画も見せていただいた。外部評価委員会の項目については、PDCA サイクルのことが書かれていて、委員会の存在が重要だと考えた。実際話を伺ってみるといろいろなところで、いろんなことをしているのがよく分かった。しかし今日配布された資料にはそのことが書かれていなかったりする。「PDCA サイクルを基本に」と書かれているので、皆様がなさっている活動をきちんと評価できるよう、もう少し活動を表に出していったほうが良いと思う。外部評価委員としては、ますます重要な役割を担っていくと感じた。

→ (林事務局長)
ご指摘ありがとうございました。より詳細な分かりやすい資料を作っていきたいと思う。

その他意見

【三木委員】

四国経済連合会および四国ツーリズム創造機構が共催で、平成 25 年度後期に香川大学地域マネジメント研究科で観光人材の育成に関する講座を 15 コマ開講することになった。この講座は、当初香川大学内だけでと考えていたが、せっかく eK4 という良いシステムがあるので、四国中の大学で受講していただきたいと考えている。香川大学の方でもいろいろ検討していただいている。平成 25 年度後期開講は決まっているので、是非香川大学以外の大学の学生にも受講していただきたい。近々発表と思うので、よろしくお願いします。

【竹内委員】

4 県協力して観光事業等を行うという仕組みがあるので、そういうところと連携するのは非常に効果があると思う。是非盛り上げてほしい。

3月17日の映像研修会についてだが、この四国情報通信懇談会というのはどういう団体なのか。

→（林事務局長）

通産省関係の団体で、こういったセミナーに対して場所や講師の派遣を無料で提供してもらえる取り組みをされている。

【竹内委員】

国の取り組みでそういった団体がたくさんあると思うので、活用していただきたい。周辺と連携して、例えば建設弘済会等は公益事業を行っているので、相談すれば協力してもらえるところがかなりあると思う。

→（林事務局長）

そういったところを活用していきたい。ちなみに今回の映像研修会は四国経済連合会からの紹介で実施することになった。

副会長挨拶

高知大学の深見です。eK4の副会長をさせていただいております。

本日は外部評価委員の皆様から非常に貴重な意見を頂きありがとうございました。特に野嶋委員からは、外部評価のためにはもう少し詳しいeK4の活動内容をまとめた資料が必要だというご指摘を頂きました。そのとおりだと思いますので、今後はその辺も含めご意見・ご提言を頂ければと思います。

本日は本当にありがとうございました。